



NEWSLETTER SPECIAL EDITION

H30 グローバル女性人材養成プログラム(ニュージーランド)特集

2019年2月16日(土)~3月18日(月)の31日間、海外協定校であるリンカーン大学(ニュージーランド)にて短期英語研修が行われ、奈良女子大学から18名の学生が参加しました。
プログラムの内容と共に、学生の感想を紹介します。

PROGRAM



リンカーン大学の英語の授業は、Academic Writing、Reading、Listening/Speaking、Research Skillsで構成されました。また、3回の特別講義も受講し、ニュージーランドの歴史や文化について学びました。研修参加者は、3月3日に開催されたクライストチャーチ市カンタベリー日本人会主催の日本祭「カンタベリージャパンデー」にも出展しました。その準備のため、後期授業で「異文化理解と平和構築」を履修しました。出展の内容も含め、ホームステイや新しい発見など研修参加者の感想とプログラムの内容を紹介します。

HOMESTAY

ホームステイをすることでニュージーランドの人々の生活、食事、文化などを体感することができたようです。

- 良かった点としては、干渉しすぎず、しかし毎日の出来事について話しかけてくれて気を配ってくれたことが挙げられる。食事の時に一緒にニュースを見て解説してくれたので早口で聞き取れないニュース番組も毎日少しずつ理解できるようになった。そのおかげで最終的にテロの日のニュースなどはほとんどの内容を自分だけで理解できるようになった。
- ホームステイでの生活は悪かったことがないくらい充実した生活を送ることができた。生活の中でコミュニケーションをとるために英語を使うため、日常的な英語の表現を学ぶことができたし、異文化の中で生活することで精神的な部分も鍛えることができたため、とても満足している。ホストファミリーとの関係もとても良好で、ホームステイ中は頻りに話しかけてくれてとてもありがたかった。帰国後もメールで連絡を取っている。ニュージーランドの生活の中で学べたことはとても多いのだが、精神的な面から考えると、自分の意思を人にはっきりと伝えることの大切さを学ぶことができた。文化的な面からは、**資源を大切に使うことの重要性を学ぶことができた**。ニュージーランドは水資源を大切にしているため入浴の際には日本のように湯船にお湯を張るのではなく、シャワーをこまめにひねって使った。ニュージーランドの生活文化と比べて、日本は資源を使いすぎなのではないかと感じた。

Lincoln University

SPECIAL LECTURE

「ニュージーランドの女性」「ニュージーランドの家族」「マオリ文化」の特別講義を受講しました



- 日本では学ぶことのできないニュージーランドの文化・歴史について知ることができて、いい経験になった。
- 毎週、先生と内容が変わるので楽しみでした。
- 普段の英語の授業を受けているだけでは得られないニュージーランドに関する知識をたくさん得られたのでとてもいい勉強になり、よりニュージーランドへの興味も湧くようになった。
- マオリの文化を学べたのは、ニュージーランドへの理解を深められる良い機会となった。

ENGLISH CLASSES & HOW THE CLASS IMPROVED STUDENTS' ENGLISH



リンカーン大学既存プログラムであるEnglish for Academic and Professional Purposes (EAP) ではレベル別にクラスを受講し多国籍のクラスメートと一緒に英語を学びました。

少人数制で先生が一人ひとり名前を覚えてくれてよく面倒を見てくれたので良かった。私のクラスは奈良女生7人、中国人7人のクラスで先生が日本人と中国人がペアになるように座らせてくれたおかげで英語を話せる機会が多くてありがたかった。クラスの中国人は学生だけでなく既婚者や子供をおいて勉強しに来ている人もいたので年齢や性別は関係ないんだと学べた。50分授業も集中できて良かった。授業で扱う内容も自分のためになることばかりで新しい知識を得られたので良かった。

Writingは少し、ハードでしたが先生が優しく教えてくださったので、最後まで粘り強く取り組むことができました。Readingは様々なレベルの教材を通して英語で読む力はもちろん、幅広い知識を学ぶ場にもなり大変勉強になりました。Listening/Speakingでは、多種多様なテーマで取り組むことができ、毎日楽しみながら学ぶことができたと思います。Research Skillsはより実践的な学習だと思いますし確実に自分の能力が向上したと感ずることができました。

他の国の人が書いた文章を読む機会があり、日本人との文章の書き方の違いを感じ面白かった。また、同じ意味の言葉でも、日本で習った単語とは別の単語が一般的であったり、知らない表現が一般に使われていたりすることを知り面白かった。

英語の授業では中国や韓国からの留学生の積極性から、普段からやる気はあっても受動的な自分の授業に対する態度を反省させられました。1か月は短い時間でしたが、当初と比べると積極性や英語が口から飛び出す頻度・考えてから口にするまでのスピードなどの点では多少向上したと感じます。中国人や韓国人のクラスメイトとSNSのアカウントで繋がることができ、また会おうと約束したことはいい思い出です。

すべて英語での授業はとても不安で一か月やっていけるか心配でしたが、終えてみると非常に充実した講義だったなと思います。毎日のように課題があり大変でしたが、その分授業以外でも英語に触れる機会が増え、writingの能力が向上しました。一番伸ばしたかったspeakingの授業に消極的になってしまったことを反省しています。

日本の授業とは大きく異なり、とても新鮮で楽しい経験をすることができました。主体的に学ぶということがどのようなことなのか分かりました。また、他国出身の留学生と話すことで、様々な考えや生活の違いを知ることができました。英語を使うことで、生まれも育ちも異なる環境で育った人と話すことができるということに感動し、さらにもっと自分の意見や思いを伝えられるようになりたいと思いました。



約一ヶ月間、ニュージーランドに滞在し、様々な国籍の学生達と勉強することで、「自分の英語力」や「価値観の変化」について考えた学生が多くいました。研修に参加した学生達がニュージーランドで発見したこと、感じたことを紹介します。

何より、自分自身が思っていた以上に英語の能力が低いことを痛感しました。言いたいことがあるのにうまく表現できなかったり、もう一言続けられたら会話が広がるのに、歯がゆい思いを何度もしました。また、読み書きに関しては知っている単語や表現は多いはずですが、いざ話すと発音が違ったり、聞き取れないということもありました。一方で、思いがけず通じたということも何度かあり、興味深い発見もありました。

みんな個々にしっかり考えを持っていてそれを実践していた。みんながカッコいいと思ったし、自分がとても小さく見えた。こんな人たちと一緒に学びたいと思った。なにがしたい、ではなくてなにがいま必要かが大事なんだと気づいた。また海外は遠い存在だと思っていたけれど、思ったより身近で人の性格は国によって違いがないのだと気づいた。留学を今まで躊躇していたけれどそんな必要は全然なかった。もっといろんなことに挑戦していこうと前向きな気持ちを持つことができた。



英語で会話をしている、何となく予想はできるけれど、確信ができません。笑って流したり、何度も聞き返すことはよくないと思った。笑って流すと、そこで話が終わってしまうし、聞き返すすぎると、相手もこれ以上、手を尽くすことが出来なくなる。それゆえ、だいたい予想できる場合は、勝手に解釈して、話を始めることも大事だと思った。間違っていたら、指摘してもらえりし、正しかったらそのまま話を続けることができるので、話が途切れることはないということがわかった。また、お店の人や、あまり人の乗らないバスの運転手はすごく優しく、英語が理解できなくても優しく説明したり話しかけてくれた。お店の空いている時間も短いし、バスもあまり時間厳守でないで、日本より、時間に余裕のある生活をしていると心にも余裕ができるのかなと思った。



日本にいる間はSNSなどに影響されていましたが、様々な人と出会い、文化や言語の違いがあるからこそ一般的な価値観ではなく真っ新しい物差しで、どんな人物になりたいのか考えることができたと思います。次に、環境などの社会問題についての考えです。授業などを通して、農業や環境についてたくさん学びましたが、何より印象的だったのは同じ大学生が今後の社会問題について議論していたことです。日本では滅多に見られない光景にびっくりしました。また、日本における環境問題は何かと聞かれた時に答えられず、まだまだ私は当事者意識を持って日本の問題に向き合えていなかったのだと気付かされました。これらを受けて、自分には何ができるのか考える機会が増えました。さらに、地震などの自然災害やテロに関する危機感も高まりました。

ニュージーランドとアジアの違いを感じた。ニュージーランドの人が結構明るくて、活気があった。店の人やバスの運転手など全然知らない人が結構明るく挨拶してくれたし、親切だった。時間の観念があまりなくて、自由である。



友人にホットスポットを案内してもらい、ニュージーランドで起こった地震について詳しく知った。耐震工事や人々の災害時への対策が被害の大きさを左右することを学んだ。日本にもアイヌ民族がいるが普段の生活で意識することはないが、ニュージーランドは街のいたるところにマオリの文化が見え先住民族をとっても大切にしていることがわかった。特別授業で日本とニュージーランドを比較することがあり1つの国や事柄でも様々な側面から情報を得、考察することの重要性を感じた。自分の意見を発信するには自分の考えを持っていないといけないし、そのためにはたくさんの情報を得て考える力が必要だということも学んだ。全部知りたいから全部自分でやりたいという話を聞いて、学習意欲を保つには知的な好奇心を刺激するような体験が必要だと感じた。



今年のカンタベリージャパンデーでは、「秋」をテーマに開催されました。奈良女子大学からは、アウトドアパフォーマンスとして「応援合戦の紹介」を行いました。また、ブースでは「水引作り体験」、「うさぎのぬいぐるみ作り」、「日本の秋をテーマにしたポストカード作り」を出展しました。

- ジャパンデーでは現地に住む日本人や日本に興味を持つ外国人の人と関わることができたのでとても新鮮な経験だった。また、クラスメイトの中国人の友達が、ジャパンデーに来てくれたことをきっかけに日本に興味を持ち始め、来年日本を訪ねてくれるという約束ができたのがとても嬉しかった。
- カンタベリージャパンデーでは半年間準備してきたものを大勢の前で披露できてかなりの達成感を味わうことができた。私はステージ発表だったので現地の人と会話する機会は少なかったけどステージ発表のメンバーととても仲良くなったので嬉しかった。
- ジャパンデーでは、現地の日本人の方から色々なお話を聞くことができたのがいい思い出です。ステージ発表では緊張しましたが、温かく受け入れてくださる現地の人たちや盛り上げてくれる日本人の声援の中で英語でパフォーマンスをしたというのは貴重な経験だったと感じます。
- ジャパンデーはとにかく忙しかった。準備をしているときはそんなに来客数はいないだろうと思っていたが、当日はたくさんの方がブースに来てくれた。そこで私たちが日本で用意してきたものを喜んでもらえて本当にうれしかった。



FUTURE

- 私は、将来教師になりたいと思っています。教師になった時にこの経験を生徒たちに伝えて、日本の文化の素晴らしさや、海外の生活や文化の違いを伝えたいと思います。それから、さまざまな人がいる事に関して多様な考えを受け入れる生徒たちを育てたいと思います。
- 将来海外で日本語を教えたり武装解除等国連などに関わる仕事にも興味があるため、まずは基本となる英語力をきちんとつけられるよう、今回できるようになったことは忘れないように維持して、もっとレベルを上げられるように国内でもできる基礎の勉強を重ねていきたい。
- この研修で国際交流に対する興味がかなり高まったのでこの熱が冷めないうちに国際交流できる場に自分から積極的に参加したい。ニュージーランドでは困ったときに現地の人にたくさん助けてもらったし、優しく接してもらえたので日本にいる外国人が困っている時は助けたい。
- 様々な問題を多様な視点から考えることを意識していきたい。
- 日本が一番住みやすい場所であると思っていたが、ニュージーランドでの生活を通して、他の国も十分住みやすいと思ったので、いろいろな国に留学してみたいと思った。
- 生活していく中でもっとたくさんの国の文化や習慣に触れてみたいと思うようになった。また同じ英語圏でもアクセントや発音が違うのでその違いを実際に感じたいと思った。
- 海外で暮らしたという貴重な体験を忘れずに何事にもチャレンジしたいです。
- 会話スキルを上げて、海外ボランティアとして活躍したり、2020オリンピックで外国人の案内ができるようにこれからも英語の勉強を続けていく。
- 英語を学び続けたいと思っています。また、大きなことはできなくても少しでも男女格差をなくす働きができればと思います。
- 進学するか、就職するかを考えるときに、この経験を踏まえて、考えていきたいと思った。

現地時間2019年3月15日、ニュージーランドのクライストチャーチでテロが発生しました。国際交流センターでは、事件の一報が入った直後から、研修中の学生全員の安否と所在地を確認し、現地スタッフとも連絡を取りながら対応しました。

奈良女子大学 国際交流センター

NEWSLETTER NZ特別号 2019年6月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL: 0742-20-3736

Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp

<http://www.nara-wu.ac.jp/iec/center/ja/index.html>